

# タイ王国及び他の東南アジア諸国の経済・産業動向、社会動向報告書

2020年3月

こんにちは。鳥取県東南アジアビューローの辻です。

先月より世界的に新型コロナウイルスが猛威を振るっていますが、タイにおいても3月下旬に入ってから感染者数の増加率が上昇したため、緊迫度を増してきました。バンコク首都圏ではデパートや娯楽施設の閉鎖（食料品や日用品売り場、スーパーマーケット、コンビニエンスストアは営業）や、飲食店では持ち帰りやデリバリーのみ対応（店内での飲食は禁止）となるなど日常生活にも影響を及ぼしています。

今回はアジアでも屈指の観光立国である、タイの観光産業とその問題、また新型コロナウイルスによる影響についてお伝えします。





なお、最新の東南アジア地域への渡航情報については、以下 URL 先の「現地レポート 2020年2月号」からもご確認いただけます。

URL : <https://www.pref.tottori.lg.jp/sareport202002/>

## 【タイの観光産業】

タイを訪れる外国人観光客の数は年々増え続けており、2017年は3,535万人、2018年は3,828万人、そして2019年には3,980万人と、ここ3年間でその数は日本を上回っています。

2018年のデータでは、タイは世界全体で9番目に外国人旅行者の多い国で、アジアでは中国（4番目）に次いで2番目に位置しています。（日本は11番目）

国際観光客数トップ10						
2018年			2017年			
1位		フランス	8,940万人		フランス	8,691万人
2位		スペイン	8,277万人		スペイン	8,178万人
3位		アメリカ合衆国	7,961万人		アメリカ合衆国	7,694万人
4位		中国	6,290万人		中国	6,074万人
5位		イタリア	6,214万人		イタリア	5,825万人
6位		トルコ	4,576万人		メキシコ	3,929万人
7位		メキシコ	4,144万人		イギリス	3,765万人
8位		ドイツ	3,888万人		トルコ	3,760万人
9位		<b>タイ</b>	3,827万人		ドイツ	3,745万人
10位		イギリス	3,631万人		<b>タイ</b>	3,538万人

出典：世界観光機構

# タイ王国及び他の東南アジア諸国の経済・産業動向、社会動向報告書

2020年3月

更に、マスターカード発表の、都市別でみる 2019 年版の世界の渡航先のランキングでは、2位のパリに 360 万人以上の大差をつけ、バンコクが年間約 2,278 万人で 1 位に輝きました。バンコクは 2016 年から 4 年連続トップで、他にも 14 位、15 位にプーケットとパタヤがランクインしていることから、観光地としてのタイの世界的な人気の高さがうかがえます。

また、外国人観光客から得る国際観光収入で見ると、タイは 2018 年に 630.42 億米ドル、日本の 411.15 億米ドルから 1.5 倍以上、アジアトップの利益を上げており、世界的に見ても、アメリカ、スペイン、フランスに次いで 4 位に位置しています。

観光業のタイ経済に置ける役割は大きく、特に商品輸出の低迷が続く近年では、タイの GDP に占める観光業の割合は増加しており、国家経済社会開発庁の発表では 2019 年には GDP 全体の 20% 近くまで上昇しました。タイ政府は 2030 年までに、この割合を 30% まで引き上げることを計画しています。

## 【タイの観光業が抱える問題】

タイでの観光ブームが高まる一方で、環境問題への対応が国としての急務となっています。アメリカの俳優レオナルド・ディカプリオ主演の映画「ザ・ビーチ」の舞台として有名になった、タイ南部に位置するピピ島のマヤ湾は、1 日に 5,000 名前後の観光客が訪れる観光名所でした。しかし、現在はサンゴなどの生態系回復のため閉鎖されています。閉鎖期間については、当初 2018 年 6 月から 4 か月間とされていましたが、その後、何度か延長を繰り返し、2021 年の半ばまで閉鎖となりました。

プーケットやサムイ島など、日本人観光客にも人気観光地が多いタイ。2020 年 1 月からは大手スーパーやコンビニ、デパートでのビニール袋の提供が完全に中止されるなど、今後の環境への取り組みが注目されます。



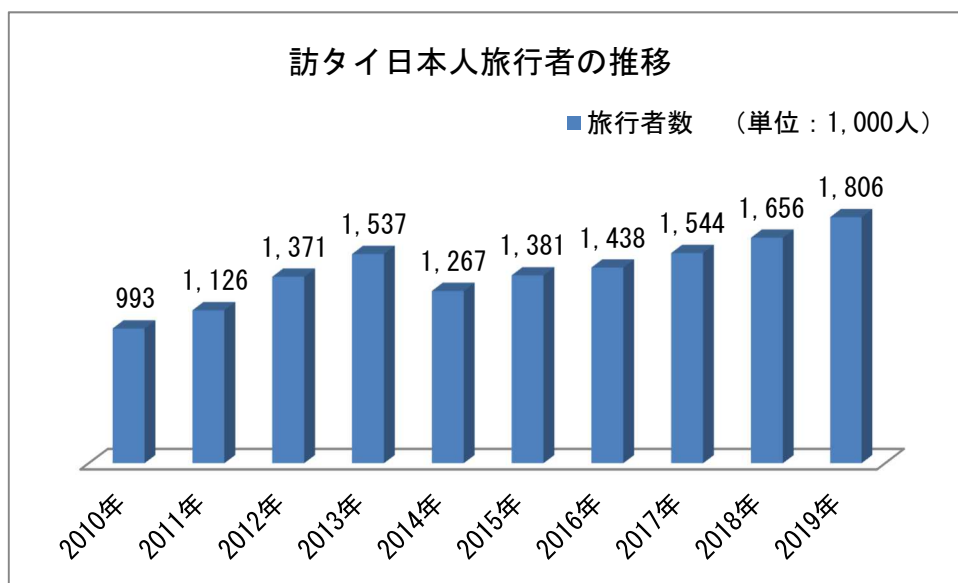
タイ南部の人気観光地マヤ湾

出典：BANGKOK POST

【新型コロナウイルスの影響】

前述の通り、観光産業の更なる成長を見込んでいたタイ政府ですが、タイ国会経済社会開発評議会（NESDC）は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、2月17日に2020年の経済成長率の見通しを従来の2.7~3.7%から1.5~2.5%へと下方修正しました。特に、タイの主要産業である観光産業への打撃は甚大です。

日本について言えば、2019年に約180万人と過去最高を記録した訪タイ日本人旅行者数ですが、2020年には更に200万人までの旅行者数の拡大を目標としていました。しかし、タイ日旅行業協会は2月19日に新型コロナウイルスの感染拡大問題のため、日本からタイを訪れる団体旅行の約8割がキャンセルになっているとの発表をしました。



出典：タイ観光・スポーツ省

世界的に見ても、タイの観光・スポーツ省長官が、2020年の上半期の訪タイ者数は前年比50%減を見込み、タイのサービス業に従事する何百万もの人に大きな影響を及ぼすとの発表をしました。2月1日から9日だけを見ても訪タイ者数は43.5%下落しており、中国人観光客だけを見ると、86.6%にもなります。その後、世界的なウイルス感染の更なる拡大に伴い、3月11日にはタイ国政府観光庁（TAT）が、2020年にタイを訪れる外国人旅行者は、最大で1,000万人、観光収入も約1兆5,000億バーツ（日本円で約4兆9,500億円）減少する可能性があるとの見解を示しました。更に20日には、観光・スポーツ相のピパット氏が、新型コロナウイルスが今年の12月までに終息をしない場合、タイの今年の外国人旅行者数は、最悪のシナリオとして前年比で3,000万人減少する可能性があるとの発表しており、見通しは悪化の一途をたどっています。

3月18日には、タイへ渡航する全ての旅行者に対してタイ発の航空便の搭乗時に、新型コロナウイルスに感染していないことを示す健康証明書の提示を求める措置を行う旨が発表され、実際に3月22日から行われております。日本では健康証明書を入手することが困難なため、事実上の渡航制限となります。これに伴い、タイ・ライオンやタイ・エアアジア、バンコク・エアウェイズ等の航空会社各社も国際線全便の運航休止を余儀なくされています。

# タイ王国及び他の東南アジア諸国の経済・産業動向、社会動向報告書

2020年3月

これを受けてタイ政府では、政策金利の過去最低となる 0.75%への引き下げや税制の優遇やコロナウイルスの感染者や損失を受けた事業者に対し、納税の猶予を認めるなど対策を講じていますが、タイ国内の感染者は、3月16日からの1週間で5倍以上に激増しており、3月23日時点で、721名の感染が確認され、更なる感染の拡大が予想されます。世界的にも終息の兆しがみられない現状を考えると、観光業を含めタイ経済への影響は計り知れません。少しでも早い収束を祈るばかりです。

鳥取県東南アジアビューロー Tottori-Southeast Asia Trade and Tourism Bureau  
担当：辻 三朗 Saburo Tsuji  
Address:1 Glas Haus Building, 12 FL., Room 1202/C, Soi Sukhumvit 25, Sukhumvit Rd.,  
Klongtoey-Nua,Wattana,Bangkok 10110  
Tel : +66-(0)-2-260-1057  
Mobile : +66-(0)-86-358-7298  
Mail : [tottori@aapth.com](mailto:tottori@aapth.com)

【鳥取県東南アジアビューローの運営法人（鳥取県より業務委託）】

■アジア・アライアンス・パートナー・ジャパン株式会社 <http://www.aap.jp.com/index.html>

タイを中心に、ベトナム・インドネシア・インド・メキシコにて主に日系中堅・中小企業様の海外進出や進出後の会計税務法務を中心とした運営支援業務を行っております。

【免責事項】

■情報の掲載内容には万全を期しておりますが、その正確性、完全性、有用性、適用性についていかなる保証も行いません。また、その利用により生じた被害や損害に関して一切の責任を負いません。

## ワンページタイ経済

項目	単位	2017	2018	2019	2020
GDP 成長率	前年比ベ (%)	4.1	4.2	2.4	2.4 (19年)
人口 *	千人	67,697	67,869	68,021	68,021 (19年)
労働者の数 *	千人	37,716	38,353	38,207	37,874 (1月)
失業率 **	%	1.18	1.06	0.99	1.07 (1月)
最低賃金 * バンコク	パーツ/日	310	325	325	331
チョンブリー		308	330	330	336
アユタヤー		308	320	320	325
ラヨーン		308	330	330	335
賃金：全国製造業の平均	パーツ	12,473	12,831	13,131	13,310 (1月)
インフレ率 **	前年比ベ (%)	0.67	1.06	0.71	1.05 (1月)
中央銀行政策金利 *	%	1.50	1.75	1.25	1.00 (2月)
普通貯金率 **	%	0.47	0.47	0.47	0.47 (1月)
ローン金利(MLR) **	%	6.35	6.32	6.29	6.18 (1月)
SET 指数 *	1975年：100	1,753.71	1,563.8	1,579.84	1340.52 (2月)
パーツ/100円 **	パーツ	30.27	29.26	28.48	28.16 (2月)
パーツ/米ドル **	パーツ	33.9	32.31	31.05	30.89 (2月)
円/米ドル **	円	112.2	110.4	109	109.7 (2月)
車販売台数 (1月からの累計)	台数	869,763	1,041,311	1,019,602	83,754 (1月)
B0I 認可プロジェクト	件数	1,227	1,469	1,500	1,500 (19年)
B0I 認可プロジェクト金額	10億パーツ	625.08	549.48	447.36	447.36 (19年)

\*期末、\*\*平均